

モーツァルト室内管弦楽団 第154回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 154. Regulärkonzert

〈ベートーヴェン・シリーズ〉 その3

2013年7月6日(土)午後2時 ■いずみホール

Samstag, 6. Juli, 2013 14Uhr Izumi Hall, Osaka

- 主催:モーツァルト室内管弦楽団 <http://moz-kam.org>
- 協賛:いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕
- マネジメント:大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504



*ロビーでは大阪ユニセフ協会を通じて、東日本大震災被災地の子どもたちのための募金活動を行っています。

モーツァルト室内管弦楽団 第154回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 154.Regulärkonzert

2013年7月6日(土)午後2時●いずみホール

Samstag, 6. Juli, 2013 14Uhr Izumi Hall Osaka

〈ベートーヴェン・シリーズ〉その3

ベートーヴェン

Ludwig van Beethoven (1770-1827)

劇付随音楽《エグmont》作品84より 序曲

Ouvertüre aus der Schauspielmusik „Egmont“ op.84

ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス ト長調 作品40*

Romanze G-dur für Violine und Orchester op.40*

ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス ヘ長調 作品50*

Romanze F-dur für Violine und Orchester op.50*

* * *

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55 《英雄》

Sinfonie Nr.3 Es-dur op.55 „Eroica“

I. Allegro con brio

II. Marcia funebre(葬送行進曲) : Adagio assai

III. Scherzo : Allegro vivace

IV. Finale : Allegro molto — Poco Andante — Presto

ヴァイオリン独奏:菊本 恭子*/Violinen-Solo : Yasuko Kikumoto*

指揮:門 良一/Dirigent : Ryoichi Kado

次回〈ベートーヴェン・シリーズ〉その4・予告

2014年5月31日(土)午後2時・いずみホール

モーツァルト室内管弦楽団 第159回定期演奏会

《レオノーレ》序曲第3番 作品72b

ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための三重協奏曲 ハ長調 作品56

交響曲 第5番 ハ短調 作品67 《運命》

《英雄》における伝承と革命

ベートーヴェンの交響曲において、第2番から第3番《英雄》への飛躍は奇蹟とも革命とも言われている。曲の大きさのめやすとして第1楽章の小節数をとって比較してみると、第1番が298小節、第2番が361小節であるのに対して、第3番は実に695小節もある。モーツァルトの最後の交響曲である《ジュピター》の第1楽章が313小節、ハイドンの同じく最後の《ロンドン》のそれが278小節であるから、ベートーヴェンの第1、2番はモーツァルト、ハイドンなみの交響曲と言えよう。全曲の演奏時間もそれらが見な30分以内に収まるのに対し、《英雄》は1時間近くを要する大曲である。その音楽も気宇壮大、まさに「英雄」の名に恥じないまことに堂々たるものである。ベートーヴェン34歳、いったい何が彼の身に起こったのであろうか。天才の心中を推し量るすべはないが、彼はなみなみならぬ決意をもってこの交響曲の作曲に当たったに違いない。

しかし、《英雄》の誕生が交響曲の歴史の中での突然変異的な現象かと言えれば決してそうではない。《英雄》を《英雄》たらしめているのはベートーヴェンの天才的独創性のみによるのではなく、ハイドン、モーツァルトという二人の偉大な先輩作曲家からの伝承も大きな寄与となっているのである。

よく言われるのは、モーツァルトの〈3大交響曲〉の中の1曲である《第39番》と《英雄》との類似点である。両者に共通している点を挙げると、①調性が変ホ長調である、②第1楽章が4分の3拍子である、③第1楽章の第1主題が最初低音弦楽器(チェロ)によって奏される、④その主題が変ホ長調の主和音の分散形から出来ており、よく似ている、等であろう。

作品の調性というものは、音楽を聴く者にとってはほとんど関心の対象にはならないが、作曲家にとっては(そして演奏家にとっても)調性こそはその作品のイメージの根源にあるものである。変ホ長調という調はベートーヴェンにとってもモーツァルトにとっても、堂々とした中に想像力を無限にふくらますことのできる特別の調であった。

4分の3拍子についてはもう一人の偉大な作曲家ハイド

ンに言及しないわけにはいかない。ハイドンは全部で106曲の交響曲を書いたが、そのうちの実に半数が第1楽章が4分の3拍子なのである。モーツァルトの50曲ほどの交響曲ではこの数は13曲となり、30パーセントに満たない。ベートーヴェンの9曲の交響曲中、第1楽章が4分の3なのはこの《第3番英雄》と《第8番》だけであるから、率にすると20パーセント余りである。交響曲という曲種はどちらかといえば四角四面の性格のものであるから、その第1楽章には4分の4か2分の2といった偶数系の拍子がふさわしい。その点ハイドンは異常なほど「3拍子好き」だったと言える。モーツァルトの〈3大交響曲〉はハイドンの強い影響下に作曲されたから、《第39番》の3拍子はもとをただせばハイドンに行きつくことになる。

チェロが主題を奏でるというのもハイドンに由来する。モーツァルトは古典派最高の管弦楽法の名手であったが、唯一チェロだけは苦手としていた。だから《第39番》で主題がチェロによって(コントラバスを伴ってではあるが)奏されるというのは、モーツァルトにおいては極めてまれなことなのだ。これもチェロ大好きだった(チェロ協奏曲の名曲を2曲も作っている)ハイドンの影響である。

《第39番》と《英雄》の第1楽章の第1主題は、チェロによって奏される最初のところも似ているのだが、しばらくして全オーケストラが奏する場面になると、トランペットを中心とした壮大なサウンドが朗々と響きわたってさらに類似感が強くなる。

このように《英雄》にはハイドン、モーツァルトからの伝承が多く見られるが、《英雄》におけるベートーヴェンの壮大さは先輩の二人をはるかに越えている。第1楽章の楽想の大胆さと豊かさは比類のないもので、聴く者にとって(演奏する者にとっても)曲が無限に続いて終わらないのではないかと錯覚させるほどである。「葬送行進曲」と題された第2楽章はそれまでに類を見ない新しい音楽で、悲壮感に満ちたなかにも広大な宇宙を思わせるものがある。また、野性味豊かなホルン3重奏の中間部を持つ第3楽章スケルツォ、壮大なフーガ的展開と長大なコーダを持つ第4楽章はこの大曲の後半部にふさわしい。

《エグモント》序曲

ゲーテの悲劇《エグモント》に付けられた全10曲から成る劇付随音楽のうちの第1曲。エグモントとはスペイン支配下のオランダの軍人でスペインの圧政に抗したため捕えられ処刑された悲劇の英雄の名である。ウィーンのブルク劇場からの依頼により作曲されたもので、ベートーヴェン39～40歳の作品。ゲーテを尊敬していたベートーヴェンのこの作品は彼の序曲中最高の傑作である。

2曲のロマンス ト長調、ヘ長調

独奏ヴァイオリンと小編成オーケストラのための小品で、ト長調のものが1800年頃、ヘ長調のものが1798年の作曲、通常「第2番」とされるヘ長調の方が先である。出版の順序が入れ替わったため作品番号も実際の作曲順とは逆になっている。ベートーヴェンにはめずらしい美しい旋律の小品だが、誰のための曲か、初演した独奏者は誰か、など一切不明である。

交響曲 第3番《英雄》

ベートーヴェン33～4歳の作品。はじめナポレオンへ献呈するつもりで作曲されたが、ナポレオンの皇帝即位に失望して献呈がとりやめられ、《英雄交響曲》と名付けられたということはあまりにも有名である(ただし、第2楽章「葬送行進曲」はナポレオンの死とは無関係である)。ベートーヴェン自身、自己の最高の交響曲と思っていたようである。同じ頃の作品にはピアノ、ヴァイオリン、チェロのための三重協奏曲、ヴァイオリン・ソナタ《クロイツェル》、ピアノ・ソナタ《ワルトシュタイン》、同《熱情》がある。

《モーツァルト室内管弦楽団を応援しよう!》

応援キャンペーンに対し下記の方々からご賛同をいただきました。お名前を記載させていただき、厚く御礼申し上げます。

<ご寄付をいただいた方>(敬称略)

稲垣千代子、田中 徹、津田 暁子

<新しく後援会にご入会いただいた方>(敬称略)

法人会員：三孝会

個人会員：乾 賢次、西川文子、原田隆宏
村上小夜子、増見達生、東 里香
能田久美、西村芳穂、関 英夫、
八幡 順、匿名2名

モーツァルト室内管弦楽団 第155回定期演奏会

定期サロンコンサート<クライネ・モーツァルト>第83回例会

<モーツァルト弦楽合奏名曲集>

2013年10月5日(土)14時●中央電気倶楽部

指揮とお話:門良一 ピアノ:小嶋貴恵

モーツァルト

ディヴェルティメント 二長調 K.136

ピアノ協奏曲 第26番 二長調 K.537《戴冠式》
(弦楽合奏伴奏版)

アダージョとフーガ ハ短調 K.546

自動オルガンのための幻想曲 ヘ短調 K.608
(弦楽合奏版)

アイネ・クライネ・ナハトムジーク ト長調 K.525

モーツァルト室内管弦楽団 第156回定期演奏会

<クリスマスに贈るモーツァルトの名曲集>

2013年12月21日(土)14時●いずみホール

指揮:門良一 ピアノ:伊藤恭子

モーツァルト

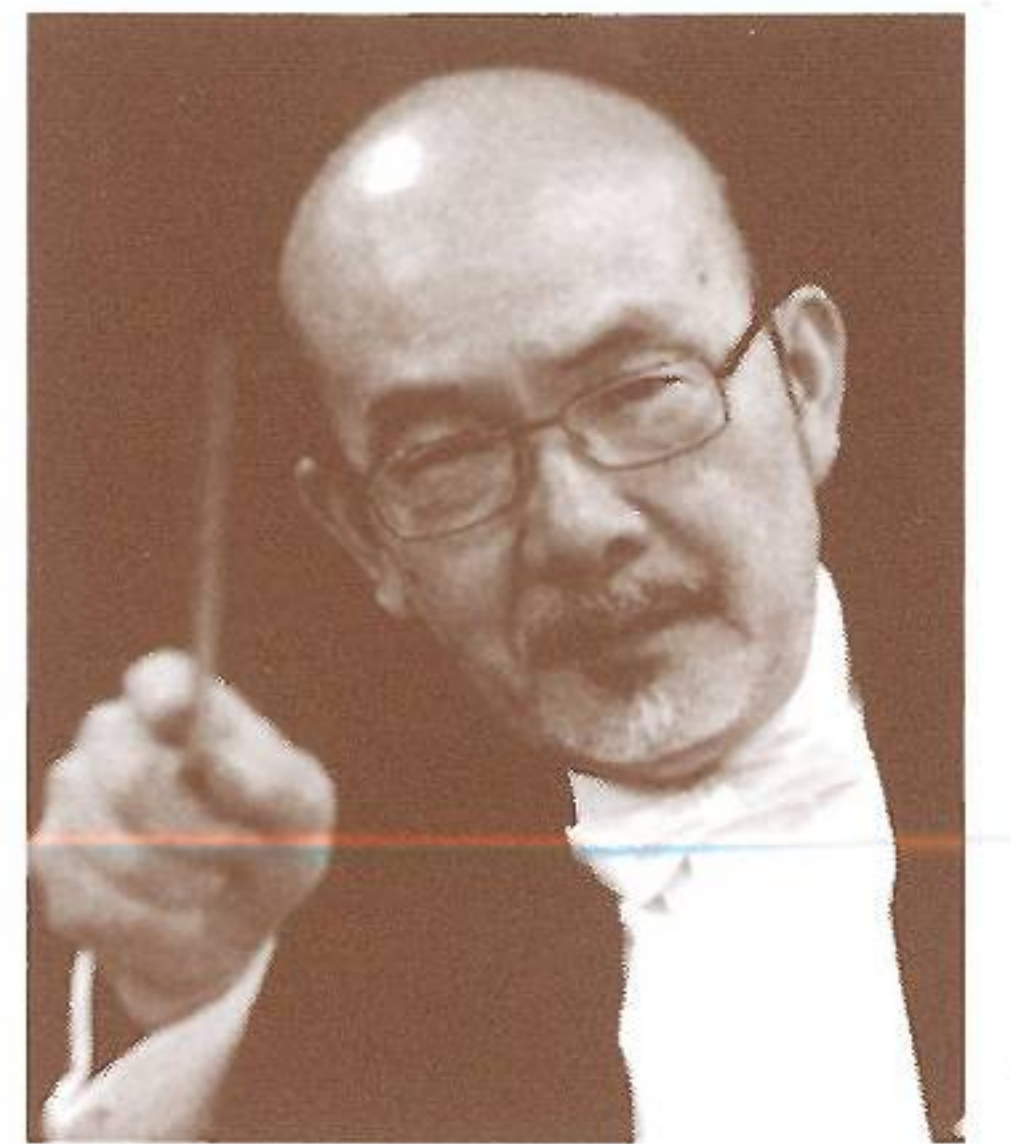
ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488

交響曲 第40番 ト短調 K.550 ほか

門 良一●指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。1962年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



菊本 恭子●ヴァイオリン Yasuko Kikumoto, Violine

4歳からヴァイオリンを始める。全日本毎日学生音楽コンクール西日本の部入選。神戸女学院大学音楽学部卒業。ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞受賞。同大学音楽専攻科修了後、ドイツ、イタリアはじめ国内外の音楽祭にて研鑽を積み、G.ボッセ、S.ガブリロフ、F.メツェーナ、O.クリサの各氏のマスタークラス修了。ブルガリアトルブーヒン室内オーケストラ、エカテリーナ宮廷室内オーケストラ、クライストチャーチ室内オーケストラ、モーツァルト室内管弦楽団、エウフォニカ管弦楽団など国内外のオーケストラと共演し、ヴィヴァルディ「四季」、バッハ、ハイドン、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、チャイコフスキーなど数々のヴァイオリン協奏曲のソリストを務める。'99年大阪府芸術劇場奨励新人賞を受賞し、'00、'04年いずみホールにてリサイタル開催。'13年中央電気倶楽部にて「音故知新」～ヒナステラ没後30年記念デュオリサイタルを開催。'97～'03年神戸女学院大学音楽学部非常勤講師。現在、演奏活動の傍ら、神戸女学院教育文化振興めぐみ会音楽教室講師、神戸女学院大学音楽学部オーケストラ要員として後進の指導にも力を注いでいる。高瀬乙慈、亀田美佐子、故東儀祐二、故田中千香士、稲庭達、辻井淳、V.パラシュケヴォフの各氏に師事。日本弦楽指導者協会、神戸フォーレ協会、神戸音楽家協会、枚方演奏家協会各会員。



モーツァルト室内管弦楽団●管弦楽

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラとの協力による「モーツァルト・オペラシリーズ」を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる「没後200年記念ハイドン・シリーズ」を、09～11年全18回にわたる「創立40周年シリーズ」を、また10年からは「ベートーヴェン・シリーズ」を開催している。

91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツァリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラとの協力による「モーツァルト・オペラシリーズ」を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる「没後200年記念ハイドン・シリーズ」を、09～11年全18回にわたる「創立40周年シリーズ」を、また10年からは「ベートーヴェン・シリーズ」を開催している。

●メンバー コンサートマスター 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	清水 めぐみ	大西 泰徳	ファゴット	佐伯 利之
	本多 智子	幣 晴代	コントラバス	土屋 綾子	倉永 晴美
	稲庭 真理子	池内 美紀		北田 由美	ホルン
	北村 奈美	道幸 明美	ヴィオラ	武村 浩嗣	垣本 昌芳
	松本 紗希	佐份利 祐子		フルート	大江 浩志
	中野 瑞己	三上 哲		オーボエ	福田 淳
	森住 憲一	高野 ちか子		クラリネット	須貝 絵里
第2ヴァイオリン	中川 敦史	日野 俊介			トランペット
	黒江 郁子	石 豊久			打楽器
	川島 多美子	野田 祐子			泉 純太郎
					門 小夜子

会長代理 谷口 安平 (京都大学名誉教授)

理事 吉野 泰生 (住友生命保険相互会社名誉顧問)

監事 玉井 英二 (三井住友カード特別顧問)

顧問 伊藤 郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 梅原 猛 (国際日本文化研究センター顧問)

(50音順)

《法人会員》(50音順)

荒川化学工業	三孝会	住友倉庫	林六
関西電力	サンリーホールディングス	ダイキン工業	福山製紙
きんでん	新日鐵住金	大同ケミカルエンジニアリング	丸山興産
小林製薬	住友精密工業	高松建設	三井住友カード
阪野商店	住友生命保険	中西金属工業	

《個人会員》(入会順・敬称略)

深田晴世	岸田多門	野崎志朗	松井基純	櫛木好明
河野幹雄	能田豊	本賀熙雄	山本道隆	深加藤啓子
河野奈津子	宮井茂治	有賀野哲郎	山本磯井隆提	安門美津子
福岡隆子	祐野尚子	佐野柳一朗	大細井原清典	川井敏二
梅原一哲	金定秀光	小田島中村猛	大伊藤村久	早川俊六
石本三千也	金定嘉也	河松原井恭子	山速藤村哲夫	東森原隆繁
田村真也	中嶋允子	得菱谷立	天橋梁松	廣飯塚岡岡
岸田克己	福岡昭正	竹林	松松山	片岡谷田
梅村博也	菅正	豊飯宮	山萬佐	長前富村
屋良正和	日藤啓明	塩田井脇脇	八高西垣	伊乾西原
國友千代子	馬場野和	塩河佐	高西垣	村東
稲垣俊太郎	阪和桑名	荒宮栗野	大西榎渡	村東
浮桑山弘	和桑石光	野森小野堀	小能河宮	小能河宮
三谷浦信一郎	石高川中		小能河宮	小能河宮
三水島敬夫	川中井井		小能河宮	小能河宮
水渡辺優子	中井井		小能河宮	小能河宮
平安藤邦太	中井井		小能河宮	小能河宮
安橋本由美	切畑東		小能河宮	小能河宮
阿川泰幸	中石藤		小能河宮	小能河宮
中村本幸忠	内神林		小能河宮	小能河宮
松笹川桂子	杉浦村		小能河宮	小能河宮
緒井昭彦	野今井		小能河宮	小能河宮
碓井みち子	玉手		小能河宮	小能河宮
碓井重龜			小能河宮	小能河宮
長井重			小能河宮	小能河宮

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)

- ・ご同伴者は10%割引となります。
- ・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。
- ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
- ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。